

課題NO.1

新たな品目・技術導入による土地利用型 法人の経営発展

活動期間：令和4年度～令和5年度

対象者：農事組合法人長岡グリーンサポート

農事組合法人志賀

チーム員：佐藤浩子、山村孝志、貴田喜徳、伊藤博祐、高橋秀典

1 課題の背景・目標

(1)対象の概要・背景

	(農)長岡グリーンサポート	(農)志賀
設立	令和28年1月	令和28年2月
構成員	40戸(理事3人、監事2人)	65戸(理事4人、監事2人)
経営規模	水稲23.8ha(うち乾田直播10ha) 大豆9.9ha 加工用ばれいしょ2.2ha その他(えだまめ)	水稲43.1ha(うち乾田直播12ha) 大豆19.5ha ぶどう13a その他(なす)
背景	<ul style="list-style-type: none">・令和3年産米の価格下落により、主食用米からの作付転換が求められており、土地利用型法人における園芸品目の導入に関しては、労力面等で課題が多い。・法人設立から7年を経過し、経営環境が変化していることから経営計画の策定・見直しが必要である。	

(2) 目標

1) 定性的目標

- 中長期計画を作成することで、経営上の問題や課題等を明らかに
にすることができ、**経営改善の取組**が行われる。
- 新たな品目・技術が導入され、**安定した法人経営**が行われる。

2) 定量的目標

- 園芸品目売上高の増加率

R 3 : 100% → R 4 : 125% → **R 5 : 150%**

(R4実績 : 96%)

2 活動内容(～R5.8月)

(1)法人運営体制強化支援



巡回による聞き取り調査
(4/20)



地域計画作成に向けた検
討会 (8/31)

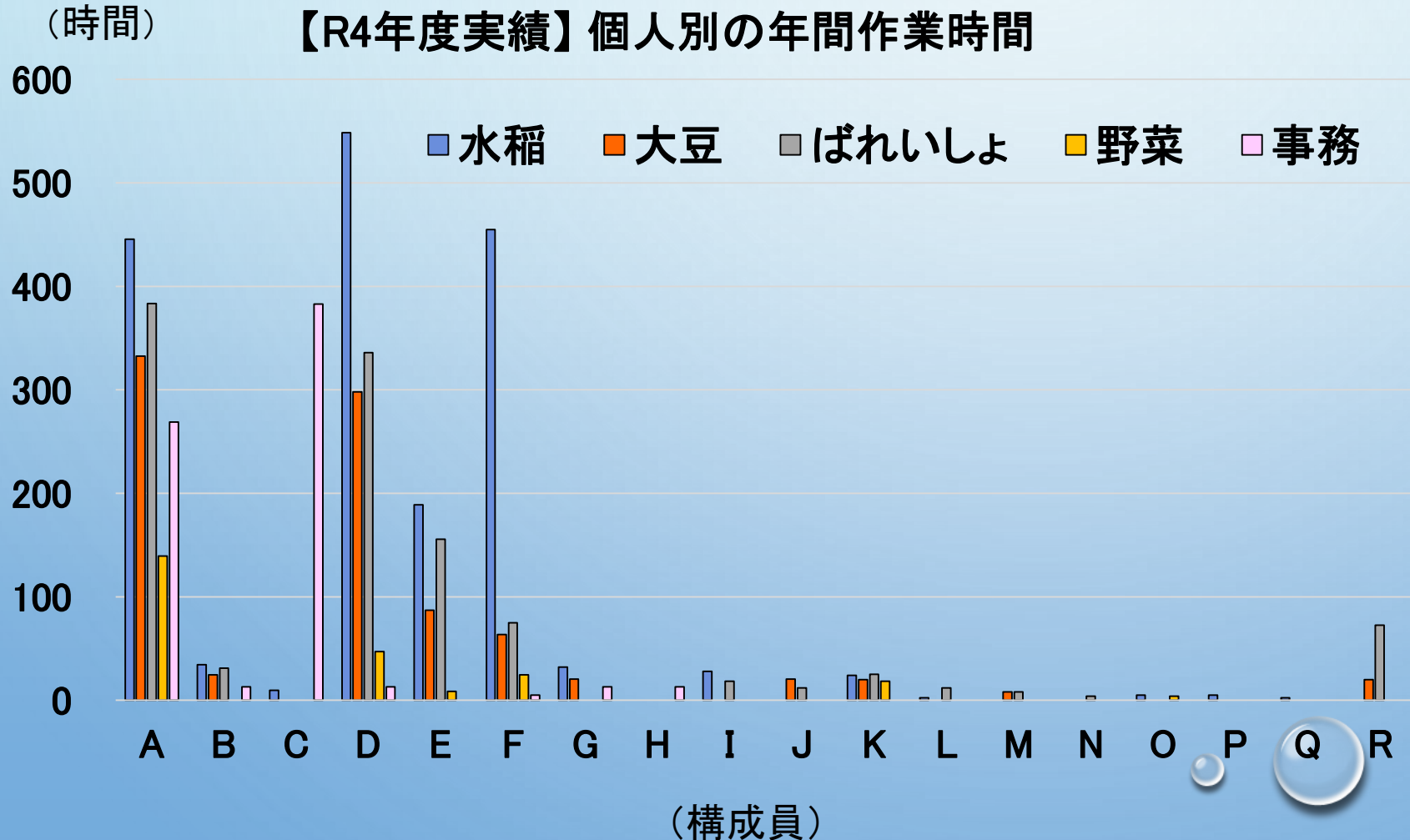


専門家派遣による中長期
計画作成支援 (7/5)

2 活動内容(～R5.8月)

(1) 法人運営体制強化支援

- ・ (農)長岡グリーンサポート



作業日報を基に、個人別の作業時間を整理



一部構成員への作業の集中が確認され、法人内で課題が共有された。

2 活動内容(～R5.8月)

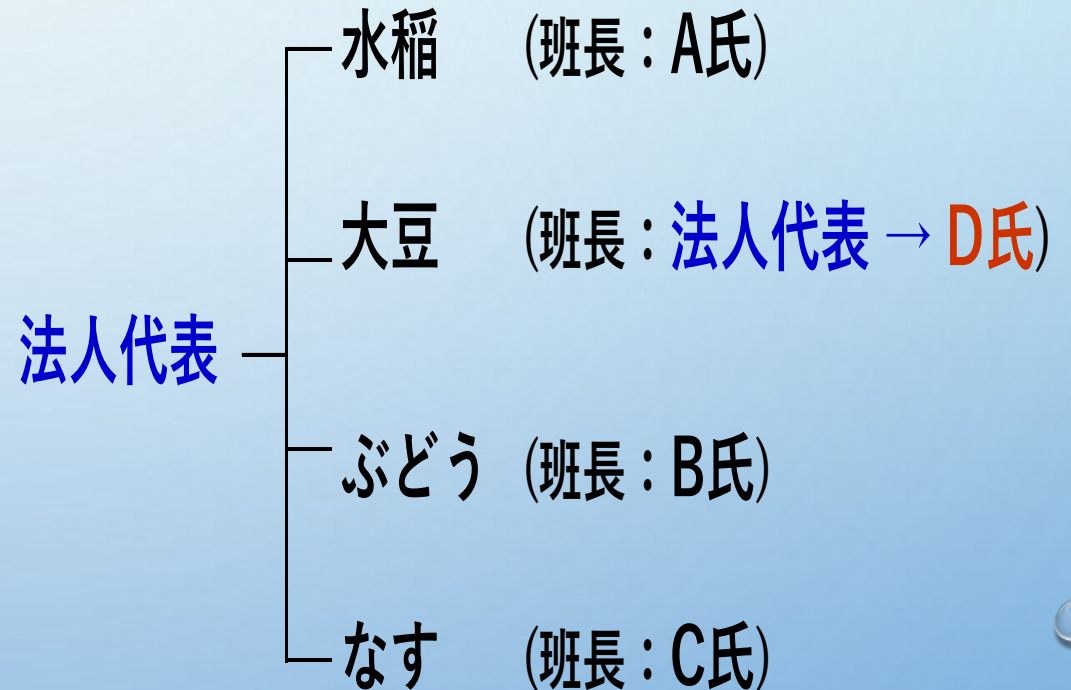
(1) 法人運営体制強化支援

- ・ (農)志賀

業務の平準化、法人代表の負担軽減を図るため、法人内の役割分担を見直し。



部門別管理の運営体制の中、大豆班長の選任、新班長への業務引継に取り組み始めた。



2 活動内容(～R5.8月)

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

- (加工用ばれいしょ：(農)長岡グリーンサポート)



排水対策試験(2/2
施工)



開花期における生育
調査 (5/30)



弾丸暗渠(慣行、
幅1.6m)



C.ドレイン×C.ブレー
カー(幅1.3m～1.6m)



C.ドレイン×C.ブレー
カー(幅1.6m～1.9m)



収量・品質調査 (7/19)

2 活動内容(～R5.8月)

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援(ぶどう：(農)志賀)



生育状況確認・指導 (4/20、9/4)



調製・出荷状況確認・指導 (8/17)

2 活動内容(～R5.8月)

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援 (水稻乾田直播)



出芽状況調査 (5/22)



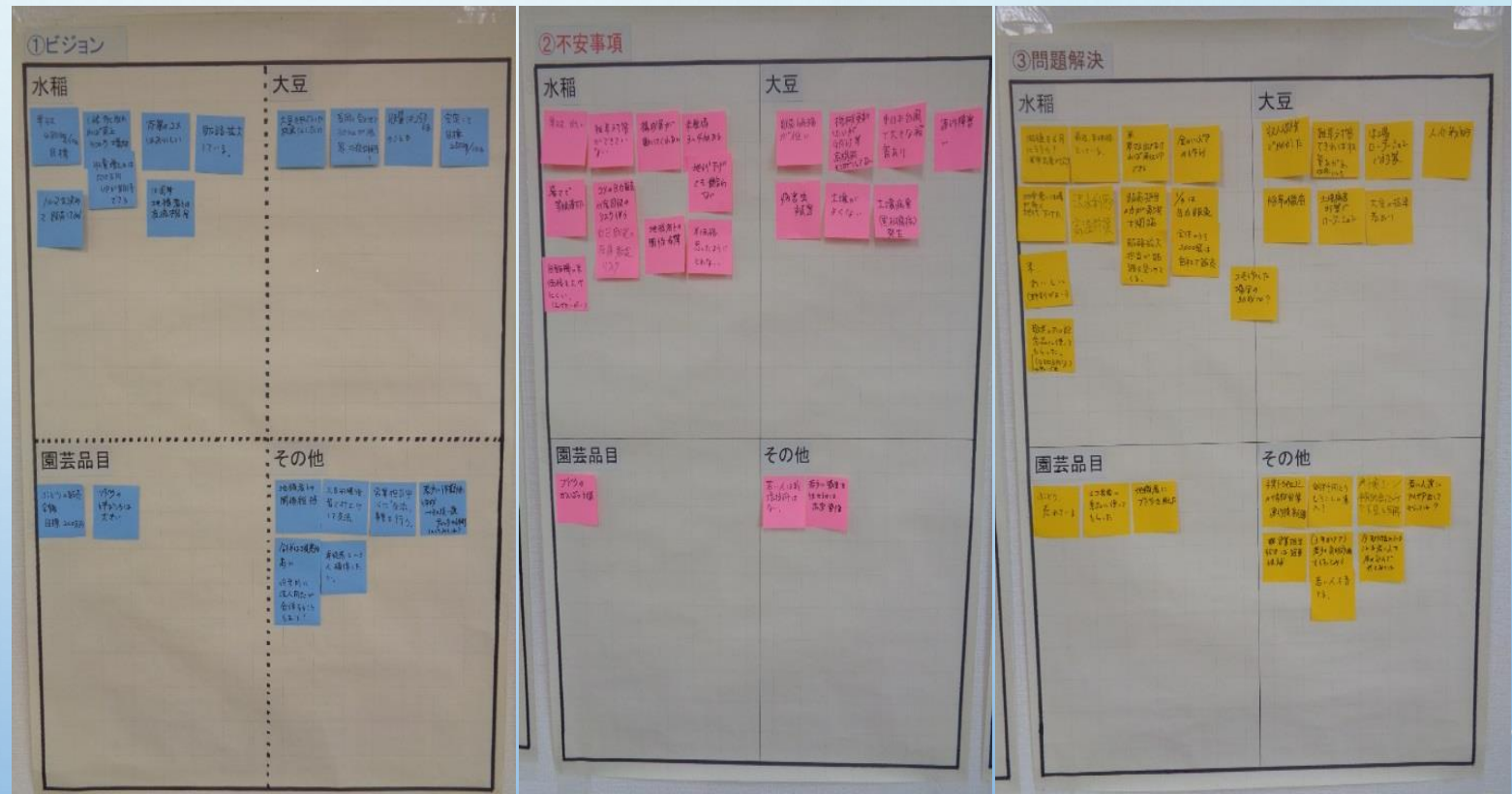
生育状況確認 (5/16)



出穂後25日調査 (8/24)

2 活動内容(R5.9月～)

(1)法人運営体制強化支援



専門家派遣による中長期計画作成支援 (12/6)

【2】稲産グリーンモード 経営計画

【1】生産計画

本業	次業
<ul style="list-style-type: none"> - 玄米の生産量を確保 - 生産量を確保しつつも - 品質向上、消費者が喜ぶおいしい米の生産を目指す - 農産物加工の展開、導入拡大 - 新規生産の増産に努める 	<ul style="list-style-type: none"> - 米の品質向上に努める - 販路拡大に努める

稲の活用	付加価値
<ul style="list-style-type: none"> - ばら米、しぼり米の活用拡大 - ばら米、しぼり米の活用拡大による消費者に対する訴求の強化 - ばら米、しぼり米の活用拡大を推進し、さらなる販路拡大を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す

生産計画	次業
<ul style="list-style-type: none"> - 玄米の生産量を確保 - 生産量を確保しつつも 	<ul style="list-style-type: none"> - 米の品質向上に努める - 販路拡大に努める

稲の活用	付加価値
<ul style="list-style-type: none"> - ばら米、しぼり米の活用拡大 - ばら米、しぼり米の活用拡大による消費者に対する訴求の強化 - ばら米、しぼり米の活用拡大を推進し、さらなる販路拡大を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す

生産計画	次業
<ul style="list-style-type: none"> - 玄米の生産量を確保 - 生産量を確保しつつも 	<ul style="list-style-type: none"> - 米の品質向上に努める - 販路拡大に努める

稲の活用	付加価値
<ul style="list-style-type: none"> - ばら米、しぼり米の活用拡大 - ばら米、しぼり米の活用拡大による消費者に対する訴求の強化 - ばら米、しぼり米の活用拡大を推進し、さらなる販路拡大を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す - 消費者のニーズに応じた生産体制の確立を目指す

【2】ビジョンを達成するための具体的な目標と改善策

【3年後(R8年度)】	
目標	目標達成に向けた具体的な対策
<p>(1) 水稲</p> <ul style="list-style-type: none"> - 平均単収540kg/10aの達成による出荷販売額の増加 (R4実績:1,580万円 → 目標:1,680万円) 	<ul style="list-style-type: none"> - 気象変動(高温等)対策による増収 - 乾田直播の面積の維持、拡大による生産の効率化
<p>(2) 米穀</p> <ul style="list-style-type: none"> - 平均単収520kg/10aの達成による出荷販売額の増加 (R4実績:1,500万円 → 目標:1,600万円) 	<ul style="list-style-type: none"> - 気象変動(高温等)対策による増収 - 土づくりや排水対策の強化による土壌改良 - 稲かんぼや米穀加工、製米設備の更新
<p>(3) 雑穀</p> <ul style="list-style-type: none"> - ばら米、しぼり米の単収720kg/10aの達成 (R4実績:1,200万円 → 目標:1,300万円) 	<ul style="list-style-type: none"> - 排水対策の強化による土壌改良 - 販路拡大による販路の拡大、さらなる付加価値の確保 - 先進地との技術交流
<p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - 販路拡大による全体販路の目標(500万円)に より、販路拡大の更新等による生産体制の改善 - 販路拡大の更新等の実施計画 - 販路拡大の更新等の実施計画 	<ul style="list-style-type: none"> - 販路拡大や生産体制の強化等、販路 内でのより良い関係構築 - 定期的な課題整理・改善策

2 活動内容(R5.9月～)

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援



新規品目・新技術に関する実績検討会(1/18)

3 活動成果

(1) 法人運営体制強化支援

- 中期計画作成が作成され、運営面での課題や対応策、今後の見通し等について共有することができた。
- 分担業務等、経営改善に向けた取組が始まった。

(2) 新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

1) 加工用ばれいしょ((農)長岡グリーンサポート)

- 排水対策により、降雨後の滞水状況に違いがあることが明確になり、来年以降の排水対策に対する意識が高まった。
- 適期に適作業を実施することができ、収量は2,736kg/10a(昨年対比で171%)販売額は、153,848円/10aであった。
- 令和6年度は、約3.8haの水田で栽培されることになった。



3 活動成果

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

2)ぶどう((農)志賀)

- 令和4年春に定植した2品種で、今年初収穫することができた。
- 自らの判断で早期落葉への対策（かん水、肥料の葉面散布）を行い、被害を軽減することができた。
- 令和5年産の販売金額は、令和4年産の612,419円の2倍以上となった。
- 土づくりの重要性が理解され、令和5年産ぶどうの収穫後に来年産栽培に向けた土づくりの検討が行われた。

3 活動成果

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

3) 水稻乾田直播

生育・収量調査結果

	出芽揃い期の 苗立ち本数	出穂期	精玄米重 (10 a 当たり)
志賀(令和5年産)	122.1本	7月30日	605kg
長岡(令和4年産)	106.7本	8月3日	544kg
目標値	100~200本	—	480~540kg

品種： ササニシキ

- ・ 雑草防除や適切な水管理の実践により、目標値を上回る収量が確保された。
- ・ 乾田直播栽培の振り返りにより、来年に向けた基本技術の再確認と技術定着を図ることができた。

4 まとめ

1) 定性的目標 → 達成！

●中長期計画を作成することで、経営上の問題や課題等を明らかに
にすることができ、**経営改善の取組**が行われる。

●新たな品目・技術が導入され、**安定した法人経営**が行われる。

2) 定量的目標 → 達成！

●園芸品目売上高の増加率

R 3 : 100% → R 4 : 125% → R 5 : 150%

(R4実績 : 96%) (R5実績 : 165%)

5 今後の対応

中期計画の達成に向け、新規品目(加工用ばれいしょ、ぶどう)及び新技術(乾田直播)が定着し、今後も安定した法人経営となるよう、引き続き技術・経営支援を行っていく。



ご清聴ありがとうございました